

金魚鉢の教室

一幕

今井雅子

登場人物

支援員・井口

公立中学校の女性学習支援員

校長・岩田

中学校の校長

担任・小林

中学校の教員・三年担任

教育委員会・磯川

教育委員会・中等教育担当

生徒・聡太

別室登校の中学生（音声のみ）

舞台。中学校の教室。

舞台奥が廊下、手前の客席側が校庭という想定。

窓の外から放課後の校庭のざわめき。

運動部のランニングのかけ声。

教卓を向いて並んでいる学校机と椅子。

井口と岩田、教卓に近い机二つを後ろに向け、後ろの机二つと向かい合わせて島にしながら、

校長・岩田

すみません。急に残っていたいで。

支援員・井口

いえ、原因を作ったのは、わたしですから。

島を挟んで向かい合っている井口と岩田。

四つの机の角を揃える。

校長・岩田

昼休みに連絡がありましたね。お話をうかがいたいと。

支援員・井口

おおごとになってしまって、ほんと申し訳ありません。

井口、頭を下げる。

校長・岩田

辞めないでください！

岩田、頭を下げる。

校長・岩田

今、辞めていただくと、困るんです。

支援員・井口

悪いのはわたしですから。

島を挟み、頭を下げ合う井口、岩田。

開けたままのドアから磯川が中を見て、

教育委・磯川

遅くなりました。

頭を下げ合っている井口と岩田。

磯川、二人に近づいて、

教育委・磯川

あの……。

その声に顔を上げる井口と岩田。

校長・岩田 磯川さん！

教育委・磯川 間違えて校長室へ行ってしまいました。

校長・岩田 井口先生。こちら教育委員会の……。

支援員・井口 ご無沙汰しています。

教育委・磯川 あれ？ お会いしたこと……。

支援員・井口 面接で。学習支援員の。

教育委・磯川 ああ。そうでしたっけ。

支援員・井口 このたびは、お騒がせしまして……。

校長・岩田 いや、騒いでるのは親のほうで。教育委員会にわざわざお越しただ

くほどの問題でも……。

支援員・井口 あの、わたし、辞めさせていただけどうかと……。

校長・岩田 井口先生。

教育委・磯川 四人目ですね。

支援員・井口 え？

教育委・磯川 この一年で。

支援員・井口 (岩田に) そんなに辞めてるんですか？

校長・岩田 不安をあおらないでください。

教育委・磯川 他の中学校では、こんなに辞めていませんから。

校長・岩田 井口先生は、まだ辞めてません。

支援員・井口　これまでの支援員の方もトラブルが……？
校長・岩田　いえ、とくにないですよ。

立ったまま見合う井口、岩田、磯川。
開けたままのドアから小林が入って来て、

担任・小林　失礼します。

校長・岩田　遅いですよ。

担任・小林　ホームルームが長引きました。

校長・岩田　こちら三年一組の担任の……。

担任・小林　小林です。

教育委・磯川　教育委員会の磯川です。

見合う四人。

校長・岩田　どう座りましょうか。

教育委・磯川　では、私はここに。

磯川、席に着く。

校長・岩田

井口先生、お向かいに。

井口、磯川の向かいの席に着く。

校長・岩田

私は、こちらにしましょうか。

岩田、井口の隣の席に着く。

担任・小林

私は残りで。

小林、磯川の隣に着席する。

無言で見合う四人。

校庭で野球部のシートノックが始まる。

野球部員のかげ声が響く。

校長・岩田

窓、閉めましょうか。

岩田、立ち上がり、窓を閉める。

校庭の音、聞こえなくなる。

岩田、廊下側のドアも閉める。

教育委・磯川 閉めると、静かですね。

校長・岩田 ですね。

磯川、書類鞆からノートとペンを取り出し、ノートを広げる。

教育委・磯川 今日うかがったのは……。

担任・小林 五十嵐聡太の件ですか？

教育委・磯川 はい。保護者が教育委員会に乗り込んで来られました。

校長・岩田 まず校長の私のところに言って来られたんですが、支援員の先生に保護者対応はさせられませんとお断りしまして……。

支援員・井口 申し訳ありません。

校長・岩田 井口先生は悪くありませんから。

教育委・磯川 相手が悪い、と？

校長・岩田 あ、いえ……。

教育委・磯川 これまで辞められた三人も問題の男子生徒絡みだったんでしょうか。

支援員・井口 そうなんですか？

校長・岩田 いや、必ずしも……。

担任・小林 いくら要求してるんです？

校長・岩田 小林先生。

担任・小林 五十嵐聡太の親は、お金のことしか頭がないんです。

教育委・磯川 やはり、これまでもそういうことが？

担任・小林 何度もです。子どもをダシにして、強請ってるんです。

支援員・井口 あの……今までのことはわかりませんが……、今回は、わたしの責任です。治療費はわたしが……。

教育委・磯川 十万円。払えますか。

支援員・井口 十万円？

教育委・磯川 給食費の滞納分をチャラにしろと言っています。

支援員・井口 給食費……。

担任・小林 そういう親なんです。

教育委・磯川 何針縫うケガだったんですか？

支援員・井口 病院には付き添っていないので……。

教育委・磯川 診断書には全治一か月と。

支援員・井口 そんな大ケガじゃありません。

担任・小林 たんこぶでも診断書取って来るんです、あの親は。

校長・岩田 学校内でのケガについては、スポーツ振興センターから給付金が下り

ますが……。

教育委・磯川 十万円は慰謝料だと言っています。

支援員・井口 慰謝料？

教育委・磯川 いじめを見過ごした学校側の管理不行き届きだ、と。

校長・岩田 待ってください。今回のケガはいじめによるものではありません。で

すよね、井口先生？

支援員・井口 はい。わたしの不注意で……。

教育委・磯川 いじめを防げなかったという不注意ではなく？

校長・岩田 五十嵐君は、ガラスで手を切ったんです。

教育委・磯川 ガラス？

校長・岩田 (井口に) ですよね？

支援員・井口 はい。わたしが金魚鉢を割ってしまっ……。

教育委・磯川 そうですか。親には、転んでケガしたと報告したそうです。

支援員・井口 え？

教育委・磯川 もちろん、親は信じていません。

支援員・井口 どうして、そんな嘘を……？

校長・岩田 井口先生をかばおうとしたのではないですか。

支援員・井口 かばう？

校長・岩田 井口先生は、ここの責任者ですから。

支援員・井口 責任者……。

校長・岩田 あ、いや、井口先生に責任があるということではなく……。

担任・小林 金魚鉢のことは言わないでと口止めしたんですか。

支援員・井口 そんなこと、してません。

教育委・磯川 金魚鉢が割れたとき、この教室には、井口先生と問題の男子生徒の二人きりだったんですよね？

支援員・井口 ……はい。

教育委・磯川 そのときの状況を再現してみましょうか。

校長・岩田 再現？

担任・小林 現場検証ですか。

校長・岩田 あの、事件じゃありませんから。

教育委・磯川 報告書を上げなくてはならないので。

校長・岩田 あまりおおごとには……。

教育委・磯川 わかっています。金魚鉢があったのは、どこですか？

支援員・井口 教壇です。

教育委・磯川 教壇？

支援員・井口 (教卓を指して) その上に。

担任・小林 教卓です。

支援員・井口 え？ あれ？ 教壇に立っって言いますよね？

担任・小林 立てますか？ あの上に？

支援員・井口 あ……。

担任・小林 教卓のあるところが教壇です。

支援員・井口 すみません。教卓です。

校長・岩田 言い回しはともかく……。

磯川、立ち上がり、教卓に近づく。

教育委・磯川 こちらですね？ ここに金魚鉢があると、邪魔じゃないですか？

支援員・井口 こちらの教室では各自、自習なので。

教育委・磯川 なるほど。教卓を使うことはない、と？

担任・小林 だから、教卓と教壇の区別がつかないんですね。

校長・岩田 いいじゃないですか、言い回しは。

教育委・磯川 井口先生と問題の男子生徒はどういう位置関係でした？

支援員・井口 位置ですか？（教卓の前を示し）わたしがここで、反対側に……。

教育委・磯川 教卓を挟む形ですか？ 教壇には立たれていたわけですね？

支援員・井口 ……位置的には。

教育委・磯川 私が問題の男子生徒をやりますから、井口先生はご自身をやってくだ

さい。

支援員・井口 はい……。

校長・岩田 あのー、「問題の男子生徒」という言い回し、何とかありませんか。

教育委・磯川 はい？

校長・岩田 「問題の」が枕詞みたいになっていますが、男子生徒だけでよろしいかと。

支援員・井口 (唐突に)できません。

教育委・磯川 どうしました？

支援員・井口 覚えていません。

教育委・磯川 ほんの数日前のことですよ？

支援員・井口 はい……。

担任・小林 思い出さたくないんですか？

支援員・井口 (ハツとして)え……。

教育委・磯川 そうなんですか？

支援員・井口 (口ごもり)

校長・岩田 問い詰められると、答えにくいですよ。

一同、黙り込む。

担任・小林 そもそも、なんで金魚鉢があったんですか？

支援員・井口　それは、金魚を飼ってたからで……。

担任・小林　その金魚も込みで、なんですけど。

支援員・井口　あ……金魚飼うの、ダメでした？

教育委・磯川　校長先生の許可は、取られているんですよね？

支援員・井口　はい。口頭で。

担任・小林　でも、物品購入には校長のハンコが……。

校長・岩田　ポケットマネーで購入されるということだったので。

教育委・磯川　金魚も井口先生が？

支援員・井口　はい。あと……餌も。

教育委・磯川　生き物を飼うことについては、とくに？

校長・岩田　犬や猫じゃないですし。

担任・小林　金魚だって、普通は教室で飼おうなんて思いませんよね？

支援員・井口　そうですね？

担任・小林　そんな余裕ないです。

校長・岩田　小林先生のクラスは、やんちゃな生徒が多いですから。

教育委・磯川　それに比べると、こちらの教室に来る生徒は、落ち着いている、と？

生徒は何人ぐらい来ているんですか？

支援員・井口　入れ替わりはありますが……多い日で十名ほどです。

教育委・磯川　金魚、飼えますね。

担任・小林 飼えるでしょう。余裕で。

教育委・磯川 なんて金魚を飼おうと思ったんですか？

支援員・井口 そんなことまで報告書に？

教育委・磯川 一応。校長先生はご存知で？

校長・岩田 いえ、私も聞いていません。

支援員・井口 ……三年生のとき、金魚係になったんです。

担任・小林 金魚係？

教育委・磯川 井口先生が中学三年のときですか？

支援員・井口 あ、小学校です。転校先の学校になじめなくて……。担任の中尾典子先生に金魚の世話をまかせられたんです。

教育委・磯川 (書き留めつつ) 担任の中尾典子先生。それで？

支援員・井口 世話をさぼると、きんちゃんが死んじゃうから、しっかり面倒見なきゃって……。

教育委・磯川 「きんちゃん」というのは金魚の名前ですね？

支援員・井口 はい。きんちゃんは、わたしの足音もわかるようになって……。

教育委・磯川 (書き留めつつ) 金魚のきんちゃん。

担任・小林 この話、報告書に必要ですか？

支援員・井口 え……。

教育委・磯川 要は、金魚の世話をすることで、学校に通う目的ができた、と？

支援員・井口 あ、はい。

校長・岩田 同じように、役目を与えることで、オアシスが、教室からはじかれた生徒たちの居場所になる。そう考えたんですね？

支援員・井口 そう……になりますかね。

教育委・磯川 「オアシス」というのは？

校長・岩田 この支援教室の愛称です。私が名づけました。

教育委・磯川 校長先生が？

校長・岩田 はい。教室からはじかれた生徒たちに、ここで羽を休めて欲しい、と。

担任・小林 教員にもそういう場所が欲しいですよ。教室は戦場ですから。

支援員・井口 ここも、そんなに平和ってわけでは……。

担任・小林 平和ですよ。金魚飼えるんですから。

支援員・井口 あの、とにかく、金魚のせいで、生徒にケガをさせてしまったわけなので……。

教育委・磯川 わざと割ったわけじゃないでしょう？

支援員・井口 はい。でも、皆さんにご迷惑を……。

校長・岩田 そんな卑屈な態度では、保護者になめられますよ、井口先生。

担任・小林 先生じゃありません。

校長・岩田 何ですか？

担任・小林 学習支援員は先生ではありません。

校長・岩田 生徒にとっては、支援員も先生でしよう？

担任・小林 井口さんは教員免許持っていないませんし。

教育委・磯川 呼び方は先生でもいいんじゃないですか。

担任・小林 「先生」と「先生ごっこ」は違うんです。

支援員・井口 先生ごっこ？

担任・小林 金魚鉢の話にしたって、そうです。小学校時代の恩師の真似をして、

いいことしてるつもりなんですよけど。

校長・岩田 井口先生は、よくやってくれていますよ。

担任・小林 そりゃ時給もらってるプロなんですから、ある程度はやっていただかないと。

支援員・井口 あの……どっちなんですか。先生ごっこって言ったリプロって言った

り。

担任・小林 支援のプロですよ。

支援員・井口 支援のプロって何ですか？

担任・小林 何ですかって……。

支援員・井口 あの……わたし、わからなくなって、インターネットで調べたんです

ね。

教育委・磯川 何を調べたんですか？

支援員・井口 「学習支援員」って入れたら、いっぱい出てきたんです。そしたら、

わたしだけじゃなかったんです。みんな困ってて。

担任・小林　みんなって誰ですか？　主語が大きすぎます。

支援員・井口　……すみません。

校長・岩田　続けてください。井口先生。

支援員・井口　オアシスみたいな支援教室に入る支援員ばかりじゃないんです。授業についていけない子がノート取るのを手伝う支援員とか、不登校の子を家庭訪問する支援員とか。

教育委・磯川　支援員のありようは、自治体によって、まちまちですから。

校長・岩田　学校によっても違います。

支援員・井口　ある人なんて、ブログにすごい愚痴書いてて、修学旅行のしおりを一人で作らされたって。それって支援員の仕事じゃないですよ？

担任・小林　それも学校によりけりでしょう。現場の手が回らないところに、外力を借りているわけで。

支援員・井口　先生の支援をするのが、支援のプロってことですか？

教育委・磯川　いえ、支援の対象は、あくまで生徒です。学習支援員ですから。

黙り込む一同。

教育委・磯川　実は、情報提供がありました。

校長・岩田 情報提供？

教育委・磯川 教育委員会あてに。

担任・小林 タレコミですか？

教育委・磯川 当日の様子を聞いていた人物がいたんです。

支援員・井口 え？

校長・岩田 誰なんだ？

磯川、手元のノートのメモを見ながら、

教育委・磯川 男子生徒が女性支援員に「金魚を池に戻してやりたい」と言ったところ、女性支援員が「それなら、聡太もオアシス出て教室に戻れ」と言った。その後、おかしな空気になった、と。

校長・岩田 おかしな空気……？

岩田、井口を見る。井口、目を伏せる。

校長・岩田 誰なんですか？ 差出人は？

教育委・磯川 匿名でした。

校長・岩田 出どころのわからない情報を鵜呑みにしていいんですか？

教育委・磯川 少なくとも、こちらの学校の関係者である、と考えられるのではない
でしょうか。

校長・岩田 誰なんだ……。

担任・小林 矛盾しませんか。

教育委・磯川 はい？

担任・小林 先ほどの井口さんのお話と。

支援員・井口 え？

担任・小林 「出て行け」と言ったことです。教室で授業を受けられない生徒の居
場所を作ると言っておきながら。生徒も混乱しますよね？

支援員・井口 わたしはただ、オアシスの中でしか生きられない子にはなってほしく
ないと思って……。一度くらい運動会にも出て欲しいし……。

担任・小林 支援教室の中でしか生きられないようにしているのは、井口さんでは
ありませんか？

支援員・井口 え？

校長・岩田 どういうことですか？

担任・小林 朝ご飯ですよ。

校長・岩田 朝ご飯？

支援員・井口 コンビニのおにぎりを……。

教育委・磯川 買ってあげてるんですか？

支援員・井口 食べて来てないようなので……。いつも顔色がすごく悪いんです。

校長・岩田 そこまでお願いしたつもりはないですが……。

教育委・磯川 ポケットマネーで金魚鉢買って、金魚買って、金魚の餌買って、生徒

の朝ご飯まで買って。持ち出しのほうが多くないですか？

支援員・井口 はい。でも、ほっとけなくて。

担任・小林 朝食の支援は、支援員の仕事じゃないと思いますけど。

支援員・井口 でも、ネットで見ると、同じことしてる人、いるんです。

担任・小林 失礼ですけど、井口さんて、お仕事されてたんですか？

支援員・井口 仕事って？

担任・小林 社会経験あるのかなと思って。

支援員・井口 二年ほど会社勤めしましたけど、結婚して、子どもが欲しくなって辞

めて……。小林先生は？

担任・小林 はい？

支援員・井口 お子さんいるんですか？

担任・小林 女の子が一人。

支援員・井口 いいですね。女の子。

担任・小林 もう大きいですけど。

校長・岩田 話がそれて来たようですが。(磯川に)すみません。

教育委・磯川 いえ。

支援員・井口 子どもはまだ諦めたわけじゃなくて……。

校長・岩田 その話はもう……。

支援員・井口 でも、うちにずっといるより、気晴らしに外で働こうと思って。

教育委・磯川 それで支援員に？

支援員・井口 小学校を希望していたんですが、空気がなくて、こちらに。

校長・岩田 井口先生に来ていただいて、助かりました。

担任・小林 そっか。先生ごっこじゃなくて、お母さんごっこだったんですね。

支援員・井口 お母さんごっこ……。

校長・岩田 小林先生。

担任・小林 五十嵐聡太の母親が家を出たのはご存知ですか？

支援員・井口 いえ……。でも、教育委員会にクレームを……。

教育委・磯川 それは父親です。

担任・小林 朝ご飯の面倒まで見てくれる井口さんを、母親みたいに感じているか
もしれませんね。

校長・岩田 悪いことではないですよ？

教育委・磯川 そうですよ。ここまで親身になってくださる支援員はなかなか……。

担任・小林 それが、お母さんごっこだって言ってるんです。

支援員・井口 ……お母さんがダメなら、どうしたらいいんですか？

担任・小林 はい？

支援員・井口 こうしなさいっていうお手本があれば、やりますけど。

担任・小林 ネットに答えはないんですか？

校長・岩田 そういう言い方は……。

担任・小林 不登校になっていた五十嵐聡太が学校に来るようになったのは、なぜだと思えますか？

支援員・井口 それは担任の小林先生が熱心に家庭訪問されて……。

担任・小林 家に居場所がないからです。

支援員・井口 え……。

担任・小林 家にいると、父親に暴力をふるわれる。学校に来るほうが、安全なんです。わかりますか？

支援員・井口 ……。

担任・小林 でも、教室には入れない。だから、ここに来るんです。

支援員・井口 ……そうだったんですか？

担任・小林 井口さん、自分のしたこと、わかってますか？ 五十嵐聡太にはオアシスしかないんです。なのに、「出て行け」なんて言われたら……。

支援員・井口 ……すみません。

担任・小林 かわいそうと手を差し伸べてから突き放すぐらいなら、何もしないほうがマシです。

校長・岩田 小林先生、それぐらいで。

誰かのスマホが着信し、震える。

担任・小林 誰のですか？

教育委・磯川 あれ？ 私かな。職場からだ。ちょっと失礼します。（出て）はい、磯川です。

磯川、ドアを開け、外に出て、ドアを閉める。

教育委・磯川 （電話に）いや、もうしばらくかかりそうで……ええ、支援員の存続に関わることで……。

校長・岩田 金魚鉢ひとつ割ただけで大げさなんだから。

支援員・井口 いじめが関係しているって、思われているんですか。

校長・岩田 シーツ。磯川さんに聞こえますよ。

支援員・井口 すみません。

校長・岩田 今回のこととは関係ありませんから。

支援員・井口 関係、ないですか？

校長・岩田 ないでしょう。割れた金魚鉢で手を切ったんですから。いじめではな

いですよね？

支援員・井口　そうですね……。不登校になったのは、いじめが原因だと聞きました。

校長・岩田　五十嵐君ですか？　今は登校できているじゃないですか。

支援員・井口　いじめていた生徒って、同じクラスなんですか？

担任・小林　うちのクラスだけじゃないです。

支援員・井口　何人もいるんですか？

校長・岩田　いじめの事実はありませんよ。今は。

担任・小林　別室登校で隔離されていますからね。

支援員・井口　隔離……。

磯川がドアを開け、会話が止む。

磯川、席に着きながら、

教育委・磯川　まいりましたよ。隣の中学校で新卒の教員が辞めてしまって。三日で

不登校ですよ。先生が引きこもっちゃって、校長先生が家庭訪問して。

担任・小林　採用のときに見抜けないものなんですか？　そういう教員に当たった

生徒が気の毒ですよ。

支援員・井口　……先生だって、辞めたくなくなるんですね。

校長・岩田 井口先生は、辞めないでください。

支援員・井口 わたしなんて教員免許も持ってない、教壇と教卓の区別もつかない、先生と呼ばれる資格なんかない、時給千円のただのパートですから。井口先生。

支援員・井口 こんなこと言うつもりじゃなかったですけど、新人研修もマニュアルもなくて、いきなりここに放り込まれて……、相談する人もいなくて……。生徒のことだって、なんにも知らされてないんです。聡太の親のことだって……。

教育委・磯川 こちらの中学校では、支援員への指導や助言は十分にされているんですか？

校長・岩田 もちろん、ほったらかしというわけでは……。

支援員・井口 よその学校では、特別支援教育コーディネーターという先生が支援員の相談に乗ってくれるらしいんですけど……。

担任・小林 またネット情報ですか？

教育委・磯川 特別支援教育は、別です。あれは発達障害などの障害を持つ生徒を支援するものでして……。

支援員・井口 別室登校の生徒は、入ってないんですか？

教育委・磯川 文部科学省の定義では。

支援員・井口 でも、障害があっても、なくても、困ってる生徒を支援することには

変わりないですよね？

教育委・磯川 そうなんですけど……。実は、こちらのようにな登校の生徒が多い学校で学習支援員を導入してはとウチの教育委員会で提案したのは、私なんです。

校長・岩田 磯川さんが？ そうだったんですか？

教育委・磯川 不登校が多いということは、登校しても教室に入れない生徒も多い。じゃあその生徒たちを誰が見るんだ、となると、学校の中では手が足りないわけです。

担任・小林 えいやっと始めてみたもののゴタゴタが続いてると。

教育委・磯川 今はまだ過渡期ですから。

担任・小林 何年過渡期やってるんですか。

校長・岩田 小林先生。

支援員・井口 やっぱり辞めさせていただきます。

校長・岩田 金魚鉢割ったくらいで辞めてもらっちゃ困ります。

支援員・井口 金魚鉢を買ったのは、わたしですから。

校長・岩田 割れない素材にしたほうが良かったですが。プラスチックとか。

支援員・井口 割れる金魚鉢を買った、わたしの責任です。

校長・岩田 せめて、あと半年待てませんか。

支援員・井口 半年……。

校長・岩田 半年待てば、五十嵐君は卒業します。

担任・小林 校長先生も卒業ですよね？

教育委・磯川 え？ ああ、ご定年ですか。

担任・小林 ご自分の在任中は辛抱してくれと？ 後のことは知らないと？

校長・岩田 そういうわけでは……。

支援員・井口 そんなに辛いなら辞めればって、夫にも言われているんです。うちで愚痴ってたって、しょうがないだろうって。支援員だって、支援が必要なんです。

教育委・磯川 特別支援教育コーディネーターという名称ではありませんが、支援員をフォローする担当教員は各校に配置されているはずですが。

校長・岩田 ええ。当校にもたしか……。

支援員・井口 最初は音楽の鈴木先生が……。

教育委・磯川 その先生には相談できなかつたんですか？

支援員・井口 それが、一週間で産休に入られて……。

教育委・磯川 となると、今は？

支援員・井口 さあ……。

教育委・磯川 引き継ぎが出来ていないということですね？

担任・小林 どうなっているんですか、校長？

校長・岩田 私もオアシスばかりやってるわけじゃないですから。いや、引き継

ぎましたよ。たしか、そう、小林先生じゃないですか。

担任・小林
はい？

校長・岩田
お願いしましたよね？ 先生のクラスはオアシスの常連もいるし、連携も取りやすいだろうってことで。

担任・小林
その話なら、お断りしましたよね？ 無理ですって。

教育委・磯川
無理ですか？

担任・小林
オアシスの常連だけじゃないんです。不登校二人に警察の厄介になる問題児も抱えていて、体がいくつあっても足りないんです。金魚を飼う余裕だって、ないんです。

支援員・井口
金魚は、もういいです。

教育委・磯川
（書き留めつつ）学校から見放されているような心細さを感じて、インターネットしか相談相手がいなかった。

校長・岩田
そこは報告書に書かなくても……。

教育委・磯川
いえ、井口先生が追い詰められていたという事実は重要です。

校長・岩田
何かあれば私に相談してくださいと……。

支援員・井口
しました。でも、後にしてほしいと言われて……。

校長・岩田
そのときは、それでも……。

教育委・磯川
教頭先生や学年主任の先生には？

支援員・井口
他の先生には紹介されていないので。

教育委・磯川 なるほど。それは問題ですね。(書き留めつつ) 教員と支援員の連携が取れていない。

校長・岩田 全く取れていないというわけでは……。

支援員・井口 それでわたし、教育委員会に電話したんですけど。

教育委・磯川 電話受けたの、私じゃないですよね？

支援員・井口 出たのは女の人でしたけど。まずは学校の中で話し合ってくださいと言われて。

担任・小林 よくある話です。

支援員・井口 小林先生に言われたんですよ？ 教育委員会に話つけてくれて。

担任・小林 私じゃどうしようもありませんから。

支援員・井口 金魚鉢が割れるまで、誰も話を聞いてくれなかったんです。

黙り込む一同。

担任・小林 だから私は反対したんです。支援員にカバーしてもらおうつもりが、結局は仕事ふえてるじゃないですか。

校長・岩田 ふえてますか？

担任・小林 金魚鉢が割れてなかったら、この話し合いもなかったですよね？

支援員・井口 すみません。

校長・岩田 井口先生が謝ることないです。

担任・小林 支援員の質を上げていかないと、足手まといになるだけですよ。

教育委・磯川 ですから、支援員を採用する際には、しっかりと面接して……。

支援員・井口 しっかりと面接されたのに、忘れられてたんですね。

教育委・磯川 すぐに思い出せなかっただけで……。

担任・小林 そうなんですか？

教育委・磯川 だんだん思い出してますよ。

支援員・井口 印象に残らないってよく言われます。だから、採用されて、ちょっとびっくりしたんです。まさか、そんな立て続けに人が辞めていたなんて知らなくて。

校長・岩田 井口先生に来ていただいて、大変助かりました。

支援員・井口 やっぱり、わたしには荷が重いです。オアシスの生徒は、教室に入れないから、ここに来るわけで……。

校長・岩田 そうです。

支援員・井口 そういう難しい生徒を、わたしみたいなド素人に、時給千円でまかせちゃって、いいんでしょうか。

担任・小林 そう、そこが問題なんですよ。

支援員・井口 ですよね？

教育委・磯川 初めて、お二人の意見が合いましたね。

担任・小林 支援教室にも来れなくなったら、もう学校には来れないんです。その

最後の砦を守るのが、教員免許も持っていない、ろくろく研修も受けていないパートでいいのかってことですよ。

支援員・井口 そうなんです。

担任・小林 毒を持ってるフグの調理を、調理師免許を持っていない素人に任せるようなものです。

支援員・井口 調理師免許？

担任・小林 ただの喩えです。

教育委・磯川 ちよっとわかりにくいです。

支援員・井口 金魚からの連想で、魚に喩えたってことですか。

教育委・磯川 金魚とフグ、全然つながらないでしょう。

校長・岩田 小林先生のご専門は理科ではありませんので。

担任・小林 理科です。

校長・岩田 失礼しました。

担任・小林 とにかく、オアシスって響きのいい名前だけつけて、やってる感出してるだけじゃいけないんです。

校長・岩田 名前つけて後は知らんぷりしてるわけでは……。

担任・小林 生徒のいるべき場所は、別室のオアシスじゃなくて、自分の教室なんです。

校長・岩田 わかっていますよ、そんなこと。

担任・小林 オアシスは、逃げ込む場所じゃなくて、巣立つ場所なんです。

教育委・磯川 あのー、だったら、井口先生と志は同じじゃないですか？

担任・小林 だから、教室に戻せばいいってもんじゃないんです。金魚鉢の金魚をいきなり池に放り込むのが乱暴なのと同じです。

校長・岩田 井口先生も、それはわかっていますよ。

担任・小林 でも、強制的にオアシスを出なくてはならない日が来るんです。いつだかわかりますか、井口さん。

支援員・井口 えっと……。

教育委・磯川 卒業、ですか？

担任・小林 そうです。オアシスみたいな居心地のいい支援教室も、お母さんみたいな支援員も結構ですけど、ここが通過地点だという自覚を持って支援しないと、生徒のためにならないんです。

支援員・井口 すみません。

校長・岩田 井口先生を責めても、しょうがないでしょう。

教育委・磯川 そうですよ。支援員個人の力では限界が……。

担任・小林 だから、教育委員会で何とかしていただきたいんです。

教育委・磯川 そう来ますか？

担任・小林 学習支援員の導入を提案なさったんですよね？ だったら、磯川さん

教育委・磯川　　が責任を持って、支援員のあり方を考えてください。
考えていますよ。だから、今日もわざわざこちらにうかがって、現場

のご意見をですね……。

磯川　　のスマホが着信して震える。

校長・岩田　　呼ばれてますよ。

教育委・磯川　　はい。

校長・岩田　　出なくていいですか？

教育委・磯川　　いいんです。

磯川　　スマホを手に取り、着信を切る。

担任・小林　　すみません。定期考査の採点が残っていますので。

小林　　席を立とうとする。

教育委・磯川　　実は、先ほどの情報提供には続きがありました。

校長・岩田　まだあるんですか。

教育委・磯川　音声が。

支援員・井口　え？

校長・岩田　音声？

教育委・磯川　内容が内容なんですけど、ここだけに留めていただくというところで。

小林、座り直す。

磯川、再生ボタンを押す。

支援員・井口（録音）　聡太……大丈夫。大丈夫だから。

生徒・聡太（録音）　先生……助けて。

支援員・井口（録音）　聡太……手、どけて。

生徒・聡太（録音）　先生も、僕のこと、嫌い？

支援員・井口（録音）　やめて……。離して……。離して！

（録音）　金魚鉢が割れる。

磯川、停止ボタンを押す。

校長・岩田 何ですか今のは？

教育委・磯川 音声は、井口先生と男子生徒のものでしょうか。

支援員・井口 ……はい。

教育委・磯川 編集や加工をされたものでは？

支援員・井口 いえ……。

校長・岩田 この部分だけ切り取ってるのは悪意がありますよ。

教育委・磯川 どういう流れで、そういうことに……？

支援員・井口 そういう？

教育委・磯川 この前に、「オアシスから出ていけ」があったわけですよ？

磯川、手元のノートを確認し、

教育委・磯川 「聡太もオアシス出て教室に戻れ」でした。そこから、その……「手

どけて」な状況には、なかなかならないといえますか……。録音の頭
で男子生徒の名前を呼ぶところは、親密な感じもありますし……。

担任・小林 井口さんに隙があったんじゃないかと？

教育委・磯川 隙と言いますか……。

支援員・井口 ……あった、かもしれません。

教育委・磯川 あったんですか？

支援員・井口　それも報告書に？

教育委・磯川　いや、書くかどうかは……。

担任・小林　まずは事実を確認しておきたい、ということですよ。

教育委・磯川　そうです。辛いとは思いますが、そのときの状況を再現してもらえますか？

支援員・井口　え……。

校長・岩田　現場検証より、差出人は誰なんですか。

教育委・磯川　私が男子生徒をやりませう。思い出してください。「聡太もオアシス出て教室に戻れ」の後です。彼は何をしていましたか？

支援員・井口　金魚鉢に手を突っ込んで……。

教育委・磯川　金魚鉢に手を？

支援員・井口　はい……。

教育委・磯川　袖口をまくらないと、制服が濡れますね。こんな感じで？

支援員・井口　はい。金魚をつかんでいました。

教育委・磯川　金魚を？　手づかみで？

支援員・井口　はい。

教育委・磯川　どうして？

支援員・井口　はい？

担任・小林　「オアシス出て教室に戻れ」の前に五十嵐聡太が言ったじゃないで

すか。「金魚を池に戻してやりたい」って。

教育委・磯川 ああ。金魚を放してやろうとしてたんですか？

支援員・井口 そうだったのかもしれない。

教育委・磯川 それから？

支援員・井口 水から出された金魚が苦しそうで……。

教育委・磯川 井口先生は、何か言葉をかけられましたか。

支援員・井口 金魚出したら死んじゃうよと注意しました。

教育委・磯川 それに対して男子生徒は何と？

支援員・井口 死んでもいいじゃん、いてもいなくても同じだし、僕ら、と。

校長・岩田 (ため息)

担任・小林 あの子の言いそうなことです。

教育委・磯川 で、井口先生はどうしました？

支援員・井口 なんてそんなこと言うのって、咄嗟に……。

教育委・磯川 咄嗟に？

支援員・井口 抱きしめました。

三人 抱きしめた？

支援員・井口 変な意味じゃなくて。なんていうか。

校長・岩田 落ち着かせようとしたんですね、五十嵐君を？

支援員・井口 よく覚えていません。

教育委・磯川 男子生徒は金魚、握りしめたままで？

支援員・井口 金魚？ あ、違うか……。その前に、わたしが聡太の手をつかんで、金魚を金魚鉢に戻させて……。

教育委・磯川 「死んでもいいじゃん、いてもいなくても同じだし」と言った後ですね？

支援員・井口 その前です。

教育委・磯川 その前？

担任・小林 金魚を戻させて、金魚死んじゃうよと言ったら、五十嵐聡太がいじけて、井口さんが抱きしめた。この順番でしょ？

支援員・井口 たぶん。

校長・岩田 あの……。抱きしめた、ではなく、抱きとめた、ではないですか？

支援員・井口 どちらかといえば。

校長・岩田 （磯川に）抱きとめた、でお願いします。

教育委・磯川 ここは、あえて再現しませんが、男子生徒を落ち着かせ用として抱きしめた、いえ、抱きとめた。それから？

支援員・井口 そしたら、手が……。

校長・岩田 うわ……。

教育委・磯川 男子生徒が手をのばして来た。

磯川、手を心持ち前に出す。

教育委・磯川 それで？ その手は？

支援員・井口 手が下着の中に……。

校長・岩田 ああ。

教育委・磯川 上ですか？ 下ですか？

支援員・井口 え？ あ、上です。

磯川、手を心持ち上に動かす。

担任・小林 それ以上は説明しなくて、いいでしょう。

磯川、手を下ろす。

気まずい沈黙。

校長・岩田 お母さんが恋しかったんじゃないでしょうか。

支援員・井口 そうかもしれません。そのときは、ただ、怖くて……。

教育委・磯川 「手、どけて」と？

支援員・井口 はい。

教育委・磯川　それでも男子生徒がやめないの、手を振り払ったときに、金魚鉢に

当たって、床に落ちてガラスが割れた……そういう流れですか？

支援員・井口　そういうことだったかと……。

担任・小林　全部答え言っちゃってますよ。

教育委・磯川　急いで報告書をまとめなくてはなりませんので。

校長・岩田　でも、録音のおかげで、はっきりしました。これは正当防衛ですよ。

井口先生にも学校にも落ち度はありません。だから五十嵐君が転んでケガをしたと親に報告したわけだ。本当のことなんて言えませんかからね。

教育委・磯川　正当防衛を主張すると、その前にあったことが明るみになってしまいますが……。

校長・岩田　その前？

教育委・磯川　支援教室で生徒による性加害があったという事実です。

校長・岩田　性加害って……。

担任・小林　そう言っても差し支えないのではありませんか。

支援員・井口　わたしは、そうは思い……

校長・岩田　（遮り）ほら、井口先生は違うとおっしゃってます。

教育委・磯川　そういう危険はあるということですね。教室で若い先生と生徒が二人きりになると。

支援員・井口 倍以上も年上です。

担任・小林 歳なんて関係ありませんよ、盛りをついた男子には。

教育委・磯川 被害届を出すお考えはないということでしょうか。

支援員・井口 そこも含めて、わたしの不注意ですので。

担任・小林 自分を責めなくていいんですよ。

教育委・磯川 井口先生のお考えはともかく、支援教室でのスキャンダルと受け取られかねない録音内容ではあります。

校長・岩田 もしかして、五十嵐君本人ですか？

教育委・磯川 え？

校長・岩田 差出人です。

教育委・磯川 それは考えにくいかと。

支援員・井口 聡太はスマホを持っていません。

校長・岩田 じゃあ誰なんだ？

担任・小林 床に手をついてないのに、なんで手を切ったんですか？

支援員・井口 え？

担任・小林 井口さんと五十嵐聡太は、ここに立ってたんですよね？ 床に落ちて

割れた金魚鉢で、どうやって手を切るんです？

校長・岩田 確かに。

教育委・磯川 あれ？ でも、井口先生におおいかぶさっていたとすると……。

担任・小林　　おい、かぶさられていたら、井口さんの手が金魚鉢をなぎ倒せませんよ、ね？

教育委・磯川　　金魚鉢が割れて、床に落ちて、ガラスが割れて……（井口に）どうや

って男子生徒は手を切ったんです？

支援員・井口　　手を突っ込んだんです。

教育委・磯川　　手を突っ込んだ？

担任・小林　　割れた金魚鉢に？

校長・岩田　　五十嵐君が自分から？

支援員・井口　　はい……金魚をつかまえようとして。

教育委・磯川　　金魚を？

支援員・井口　　はねてたんです……金魚。床の上で……。

井口、そこに金魚がいるかのように床の一点を見つめる。

教育委・磯川　　はねててつかみにくくて、ガラスでズバツと……？

支援員・井口　　ズバツかどうかは……。

校長・岩田　　ケガには気づいていたんですか？

支援員・井口　　ケガ？

校長・岩田　　五十嵐君はそのとき、手を切ったんですよね？　血が出てたんじゃな

いですか。

支援員・井口 さあ、どうだったか……。

担任・小林 血の色って金魚と似ていますから。

教育委・磯川 それから？

支援員・井口 それから……えっと、手につかんだ金魚を……。

教育委・磯川 池に返してやったんですか？

支援員・井口 いえ……投げました。

教育委・磯川 え、投げた？

支援員・井口 はい。その窓から外に。

井口、金魚を目で追うように校庭側の窓に目をやる。

教育委・磯川 ちよ、ちよ、金魚、死んじゃいますよ？

支援員・井口 はい……。

担任・小林 そういうこと平気でするんですよ。今の子たち。

教育委・磯川 でも、金魚を放してやりたいって……。そう言ってたんですよね？

支援員・井口 投げ捨てたのは、わたしへの当てつけじゃないかと……。

担任・小林 考えすぎですよ。

支援員・井口 小林先生がおっしゃったんですよ？ わたしが聡太に出て行けと言っ

たから……。

教育委・磯川 問題が起きるまで先生一人に任せっきりにしてきた学校の責任も問わ

れかねないですね。

校長・岩田 わかっていますよ。学校内で起きたすべてのことは、校長に責任が
あります。

担任・小林 教育委員会だって責任がありますよ。支援教室や学習支援員に何のフ

ォローもないんですから。

教育委・磯川 金魚までフォローできませんよ。

支援員・井口 ……結局、金魚が悪いんですか？

一同、黙り込む。

支援員・井口 あの……思うんですけど。

一同、井口を見る。

支援員・井口 やっぱり、聡太のケガは、いじめと関係ないって言い切れないんじや

ないでしょうか。

教育委・磯川 いじめ？

磯川、井口を見る。

岩田と小林、咎める目で井口を見る。

支援員・井口

いじめがなければ、聡太は教室に入れたんです。オアシスに来なくて良かったんです。金魚鉢で手を切ることもなかったんです。

教育委・磯川

いじめの事実は、あったんですね？

校長・岩田

ああ、誰なんだ、余計なことしたヤツは！ さっきの録音が拡散されたりしたら、いじめどころの騒ぎじゃないですよ。支援員がうちの子をたぶらかしたなんて、あの親に言われますよ。そしたら慰謝料追加でもう十万ですよ。

教育委・磯川

実は、今日こちらにうかがったのは、その確認のためでした。

校長・岩田

え？

教育委・磯川

差出人は誰なのか？ 廊下の突き当たりにあるこの教室の前をたまたま通りかかるといふことは、考えにくい。金魚鉢が割れたとき、この教室にいたのは、井口先生と男子生徒の二人だけでした。そのどちらかに用があり、訪ねて来た人物ではないかと考えました。

校長・岩田

本当に推理がお好きですね。

教育委・磯川

さっき、現場検証より差出人の特定をとおっしゃってましたか？

校長・岩田　それで目星はついてるんですか？

教育委・磯川　メールは、教育委員会の総合窓口ではなく、私の個人アドレス宛になっていました。となると、差出人は生徒ではなく、現場側の人間でしょう。校長先生または担任の小林先生。あるいは教室の中にいた支援員の井口先生。

校長・岩田　この中に該当者がいるというんですか？

井口、岩田、小林、探り合うように互いを見る。

担任・小林　それだけの条件で絞り込めます？

教育委・磯川　それは、送った本人がよくわかっているのではないのでしょうか？

担任・小林　……。

井口と岩田、小林を見る。

校長・岩田　まさか。

教育委・磯川　私が「情報提供」と言ったとき、「タレコミですか？」って言うの、早かったですよね。

担任・小林　……そうです。私です。

支援員・井口 小林先生が？

校長・岩田 (ため息)

担任・小林 あの日、五十嵐聡太に渡すプリントがあつて。ドアの前まで来たら、

中から声が聞こえて。咄嗟にスマホの録音ボタンを押していました。

校長・岩田 私に相談してくれたら……。

担任・小林 取り合ってくれました？

校長・岩田 ……。

担任・小林 こうでもしないと、動いてもらえませんか。

校長・岩田 だからって……。

教育委・磯川 慰謝料の請求の件で、お話をうかがう予定はしていません。

担任・小林 支援員と生徒のトラブルで済まされたら、何も変わらないんです。支援教室のあり方が問題なんですから。

小林、立ち上がり、机の島のまわりを歩きながら、

担任・小林 教室に入れる子たちより難しい子たちを教員免許のないパートに押し

つけて、教育ができます？ 何かあったときに対応できます？ 現場

まかせ、行き当たりばったり。そんなの支援じゃなくて、支援ごっこ

です。振り回されて苦労するのは、支援員と生徒です。うちの娘もそ

うでした。

教育委・磯川 え……？

支援員・井口 小林先生の娘さんが？

担任・小林 中学の三年間、ほとんど支援教室にいました。

校長・岩田 そうだったんですか。

担任・小林 最後は、支援教室にさえ行けなくなりました。井口さんのケースとは

違いますが、手が回らない、目が届かないゆえのトラブルがありました。だから、言いたいことは山ほどあります。皆さんにしてみれば、私も五十嵐聡太の親と変わらないクレイマーの一人でしょうけど。

井口、岩田、磯川、何も言えない。

担任・小林 お騒がせしました。教師としては許されない振る舞いですが、親としては正しいことをしたと思っています。処分は謹んでお受けします。

小林、着席する。

校長・岩田 わかりました。オアシスをなくしましょう。

教育委・磯川 え？

担任・小林　なくすって？

校長・岩田　井口先生が辞められて、次の人が来ても、またすぐ辞めちゃうでしょう。

教育委・磯川　井口先生が辞められるのは決定事項なんですか？

校長・岩田　支援員がコロコロ変わって、中途半端になるくらいなら、やらないほうがいいですね。そのほうがすっきりしますよ。

担任・小林　今、別室登校している生徒は、どうなるんですか？

校長・岩田　小林先生はどうしたいんですか？

担任・小林　私はただ、今のままでは……。

校長・岩田　ダメ出しするばかりじゃなくて、代案を出してくださいよ。

重い沈黙。

教育委・磯川　金魚鉢は、なかった。

井口、岩田、小林、「？」と磯川を見る。

教育委・磯川　金魚鉢は、なかった。だから、割れてもいない。そういうことで、ど

うでしょう。

支援員・井口　　そういうこと？

校長・小林　　どういうことですか？

教育委・磯川　校長先生、問題の金魚鉢を見ましたか？

校長・岩田　　いえ……報告を受けたのは、金魚鉢の始末が終わってからで。

教育委・磯川　金魚が泳いでいるところも？

校長・岩田　　はい。オアシスを支援員任せにしていると批判されそうですが。

教育委・磯川　小林先生は？

担任・小林　　……私も、見ていません。

支援員・井口　え？ さっきの録音……？

校長・岩田　　見てはいませんよね。

支援員・井口　　……。

教育委・磯川　誰も見ていない。よって、金魚鉢など、なかった。

支援員・井口　皆さん、何言ってるんですか？　聡太は、割れた金魚鉢で手を切ったんですよ？

教育委・磯川　本人は、転んでケガをしたと親に報告しています。

支援員・井口　生徒の嘘に乗っかるということですか？

教育委・磯川　他に、いい落としどころがありますか？

支援員・井口　落としどころ……？

教育委・磯川　この学校だけの問題で済むのなら、私もこんなに気を揉みませんよ。

校長・岩田 すみません。教育委員会にもご迷惑を……。

教育委・磯川 それより心配なのは他の学校への影響です。下手をすると、学習支援員の先行きにも影を落としかねません。

校長・岩田 ごもつともです。

教育委・磯川 男子生徒のケガは、本人の申告通り転倒によるものであり、いじめの事実はない、よって学校側の過失はない。そういうことで報告書上げます。よろしいですね？

校長・岩田 ……はい。よろしいですか、小林先生？

担任・小林 私は意見できる立場にないですから。

校長・岩田 では、そういうことで、なんとか。

教育委・磯川 ええ、なんとか。最近は教育委員会に乗り込んでくる親が多くて。

支援員・井口 あの……いいんでしょうか。

教育委・磯川 何がですか？

支援員・井口 なんだか、うやむやにしている気が。

教育委・磯川 うやむや？

支援員・井口 うまく言えないんですけど。

担任・小林 井口さん、ご主人にはこのことを？

支援員・井口 このこと？

担任・小林 お話しされました？ 男子生徒に押し倒されそうになったと。

支援員・井口 ……言えません。

担任・小林 私だって、同じ目に遭ったら、言えませんよ。ご主人の耳に入れないためにも……。

支援員・井口 小林先生がそれを言いますか？

担任・小林 ……。

支援員・井口 誰にも知られたくなかったです。

教育委・磯川 誰にも言いません。

校長・岩田 とにかく、これ以上傷を広げないために……。

支援員・井口 誰の傷ですか？

校長・岩田 ……。

ブルブルと磯川の携帯電話が震える。

教育委・磯川 ああ、しつこいな、もう。

支援員・井口 すみません。

教育委・磯川 いえ、電話のことです。では、部会がありますので。

磯川、ドアへ向かう。

岩田、小林、追いかけて、見送る。

校長・岩田 お忙しいところ、お手数、おかけしました。

担任・小林 支援教室のあり方については、引き続き、よろしく願います。

支援員・井口 待ってください。

振り返る磯川、岩田、小林。

井口、バサツとビニール傘を広げる。

大きな金魚が描かれている。

教育委・磯川 この傘が、どうかしたんですか。

支援員・井口 聡太の傘です。

教育委・磯川 はあ。

担任・小林 また金魚ですか。

教育委・磯川 執着しますねえ。

支援員・井口 聡太が描いたんです。

校長・岩田 磯川さんはお急ぎだから。

支援員・井口 よく見てください。「キモイ」、「死ね」って書いてます。

教育委・磯川 え……どこですか。

支援員・井口 (金魚を指し)ここです。

磯川、傘にぐっと顔を近づけ、

教育委・磯川 (読み上げ) キモイ……死ね……ああ。

支援員・井口 この落書きを消すために、金魚を描いたんです。

教育委・磯川 それが？

支援員・井口 オアシスにいても、いじめは追いかけてくるんです。

校長・岩田 その話はもう……。

支援員・井口 本当は教室で授業を受けたいんです。

担任・小林 傘、閉じたほうが……。

支援員・井口 聡太は、金魚鉢の金魚なんです。

教育委・磯川 何が言いたいんですか？

校長・岩田 すみません。(井口に) 傘、しましましょう。

支援員・井口 金魚を池に戻したい。金魚は聡太のことなんです。

教育委・磯川 ずいぶんお疲れのようですね。

担任・小林 支援員の心のケアも報告書に盛り込んでもらえますか。

教育委・磯川 そうします。

支援員・井口 聡太の気持ち、わかってあげてください。

校長・岩田 井口先生、傘、畳みますよ。

岩田、手をのばし、傘を畳もうとする。

井口、傘を閉じると、竹刀を構えるように高く振り上げる。

校長・岩田　ちよっと、傘！

井口、ガン！　と傘で窓をたたく。

校長・岩田　井口先生！

支援員・井口　（たたきながら）金魚鉢は、ありました。

担任・小林　まだ言ってるんですか？

井口、ガン！　ガン！　と傘で窓をたたきながら、

支援員・井口　わたしが買いました。金魚を泳がせました。

校長・岩田　井口先生！

担任・小林　窓、割れますよ。

教育委・磯川　傘、下ろしてください。

井口、ガン！ ガン！ と傘で窓をたたき続ける。
井口の脳裏に蘇る、様々な人の声。

担任・小林（回想） 先生ごっこじゃなくて、お母さんごっこだったんですね。

校長・岩田（回想） お母さんが恋しかったんですね？

担任・小林（回想） 五十嵐聡太には、オアシスしかないんです。

生徒・聡太（回想） 金魚、池に戻してやりたい。

教育委・磯川（回想） 誰も見ていない。よって、金魚鉢など、なかった。

生徒・聡太（回想） 死んでもいいじゃん、いてもいなくても同じだし、僕ら。

生徒・聡太（回想） 先生……助けて。

生徒・聡太（回想） 先生も、僕のこと、嫌い？

ブクブクとあぶくを立てて満ちてくる水の音。

井口、ガン！ ガン！ と傘で窓をたたき続ける。

制止の音が、あぶくを隔てたように、くぐもって聞こえる。

教育委・磯川 落ち着いて！ 落ち着いてください！

担任・小林 校長先生！ 止めてください！

校長・岩田 止めてます！ 傘を下ろさない！

あぶくの音、どんどん満ちて、息苦しさが募る。

支援員・井口

なかったことに、しないでください。

井口、ガン！ ガン！ と傘で窓をたたき続ける。

支援員・井口

なかったことに、しないでください。

井口、ガン！ とひとときわ強く傘で窓ガラスを叩く。

窓ガラスが割れ、かけらが飛び散る。

回想の金魚鉢が割れた音が重なる。

回想のあふれ出す水の音。

傘を持ったまま立ち尽くす井口。

呆然と立ち尽くす岩田、磯川、小林。

回想の金魚がはねる音。

床の一点を見つめる四人。そこに金魚がはねているかのように。

回想の音が尽き、窓の外の野球部のかげ声がなだれ込む。